



環境経営レポート 2019

対象期間:2018年4月1日～2019年3月31日

発行日:2019年7月1日



日立建機グループ



新東北メタル株式会社

【 目 次 】

1. 環境経営方針	2頁
2. 事業概要	3頁
(1) 事業者名及び代表者名	
(2) 所在地	
(3) 活動範囲	
(4) 環境管理責任者及び連絡先	
(5) 事業内容	
(6) 事業規模	
3. 活動経営目標	4頁
(1) 2018年度及び中期(2020年度)数値目標	
(2) その他取組の行動目標	
(3) 実施体制	
4. 実績・取組結果	5頁
(1) 実績値と分析	
(2) エネルギー使用量及びCO ₂ 排出量の推移	
(3) 行動の取組結果	
5. 活動状況【写真集】	6頁
6. 2019年度の目標と計画	7頁
7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	8頁
8. 管理責任者の評価	8頁
9. 代表者による評価と見直し・指示	9頁

環境経営方針

基本理念

鑄鋼品の製造・販売を通して、自主的かつ継続的な環境保全活動に取り組み、広く社会に貢献します。

行動指針

1. 環境経営マネジメントシステムを構築・運用し効果的な活動を行います。
2. 事業活動を通して、二酸化炭素・廃棄物・水使用量・化学物質使用量の削減及び省エネルギーを推進します。
3. 環境関連法規を順守します。
4. システムの運用及び環境経営目標を定期的に見直し、継続的に改善を図ります。
5. 生産に使用する資器材の環境への配慮を行いません。
6. 環境経営方針を全社員に周知徹底するとともに、環境保全・環境改善に関する意識向上のための教育と啓発に努めます。

2018年7月1日改定

新東北メタル株式会社

社長 来栖 直敏

(1) 事業者名及び代表者名

新東北メタル株式会社

代表取締役社長 来栖 直敏

(2) 所在地

本社・工場

〒018-3301

秋田県北秋田市綴子字上台121-2

TEL:0186-62-2381 FAX:0186-62-2387

HP:<https://www.shintohokumetal.co.jp/>

加工工場

〒018-3331

秋田県北秋田市鷹巣字本屋敷28

TEL/FAX:0186-62-2403

(3) エコアクション21の活動範囲

本社・工場及び加工工場(全組織、全活動対象)

(4) 環境管理責任者名及び連絡先

責任者:管理部長 赤間 敏

連絡先:TEL・FAX 所在地と同じ

e-mail :s.akama.im@shintohokumetal.com

(5) 事業内容

鋳鋼品の製造・機械加工及び販売

【建設機械、産業機械、橋梁、建築、造船、製鉄機械、他部品】

(6) 過去3年間の事業規模

規模	単位	2016年度	2017年度	2018年度
資本金	千円	255,000	255,000	255,000
生産量	t	2,791	3,112	3,003
従業員数	人	83	92	97

環境経営方針及び現行負荷・取組内容等を踏まえ、実現可能と考えられる削減幅を設定し、目標としている。

(1) 2018年度及び中期(2020年度)数値目標

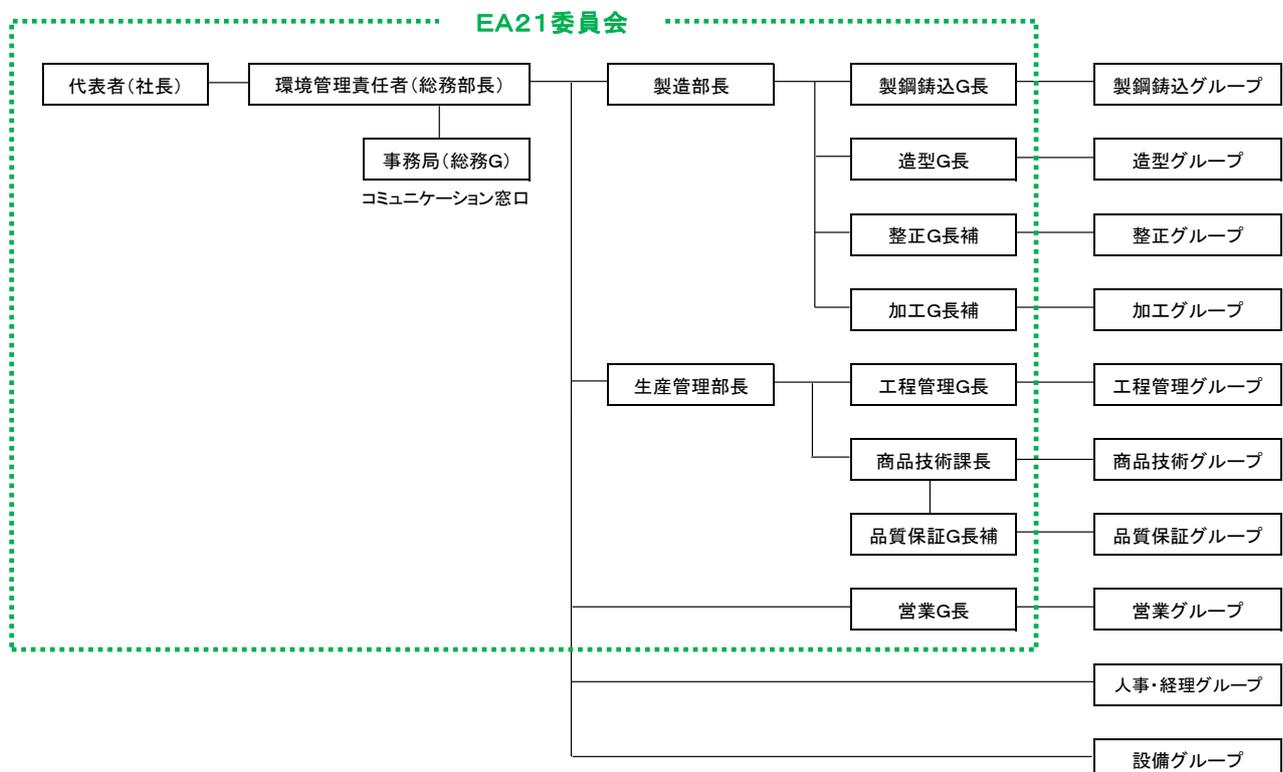
(削減%は対基準値)

項目	単位	基準値 (2017年度)	中期目標 (2020年度)	2018年度目標
電力使用量	kWh/生産t	1,962.9	1,904.0	19,43.3 (1%削減)
重油使用量	L/生産t	168.7	163.6	167.0 (1%削減)
LPG使用量	kg/生産t	168.7	163.6	167.0 (1%削減)
二酸化炭素排出量	t-CO ₂ /生産t ×1000	1,991.1	1,931.4	1,971.2 (1%削減)
水使用量	m ³ /人	22.9	22.2	22.7 (1%削減)
紙使用量	購入円 /生産t ×1000	22.7	22.0	22.5 (1%削減)
産廃最終処分量	産廃t /生産t ×100	54.6	53.0	54.1 (1%削減)
化学物質使用量 (クロム化合物)	使用t /生産t ×100	29.9	29.0	29.6 (1%削減)

(2) その他取組の行動目標

- ・『環境適合品購入の推進』
エコマーク及びグリーンマーク製品他、適合品の優先購入を継続する。
- ・『環境保全意識の向上』
全従業員を対象に環境教育を実施する。
- ・『地域環境への協力』
年1回、地域のクリーンナップ活動に参加する。

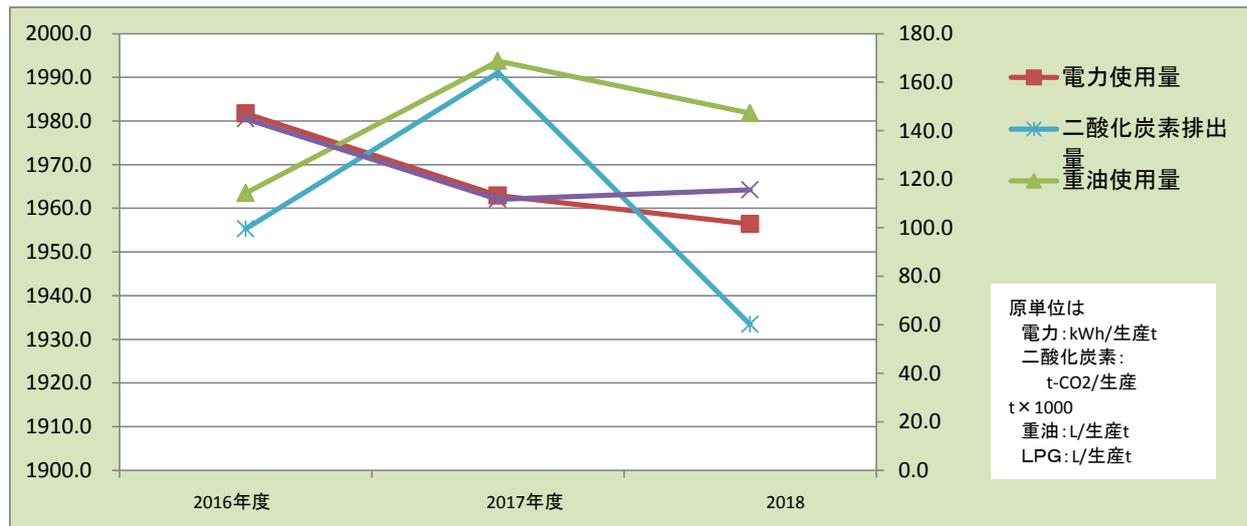
(3) 実施体制



(1) 実績値と分析

項目	単位	中期目標 (2020年度)	年度目標	実績	結果	分析
電力使用量	kWh/生産t	1,904.0	19,43.3	1,956.4	△	電気炉の連続操業に努めたが、僅かに未達となった。
重油使用量	L/生産t	163.6	167.0	147.2	○	終盤近くに、更新により重油使用設備が減った事から大幅クリア。
LPG使用量	kg/生産t	108.3	110.6	115.6	×	終盤近くに、重油炉1基解体により、ガス炉稼働率が上がった為、オーバーしてしまった。
二酸化炭素排出量	t-CO ₂ /生産t	1,931.4	1,971.2	1,933.4	○	排出係数が高い重油使用量が大幅に減った事から、達成となった。
水使用量	m ³ /人	22.2	22.7	23.4	×	夏季の平均気温が例年より高かった事によると思われる。
紙使用量	購入円/生産t ×1000	22.0	22.5	24.0	×	Smop-Win関連の印刷物が増加した事によると思われる。
産廃最終処分量	最終処分t/生産t ×100	53.0	54.1	48.7	○	前年度より、鉛滓排出量が大幅に減少した事による。
化学物質使用量 (クロム化合物)	購入t/生産t	29.0	29.6	(70.4)	—	クロム含有取扱い資材が変わった事から、比較出来ず。

(2) エネルギー使用量及びCO₂排出量の推移



(3) 行動の取組結果

目標	取組内容	結果	状況
(1) 環境適合品購入推進	消耗品は適合品を優先購入	○	継続実施している。
(2) 環境保全意識向上	定期的に環境教育を実施	○	印刷資料を全員に回覧した。
(3) 地域環境への貢献	地域のクリーンアップ活動参加	○	自治体の日程に合わせて実施した。

2018.4 クリーンアップ(構内)



2018.4 クリーンアップ(構外)



2018.8 レポート回覧



購入エコマーク製品



産廃管理(廃プラ)



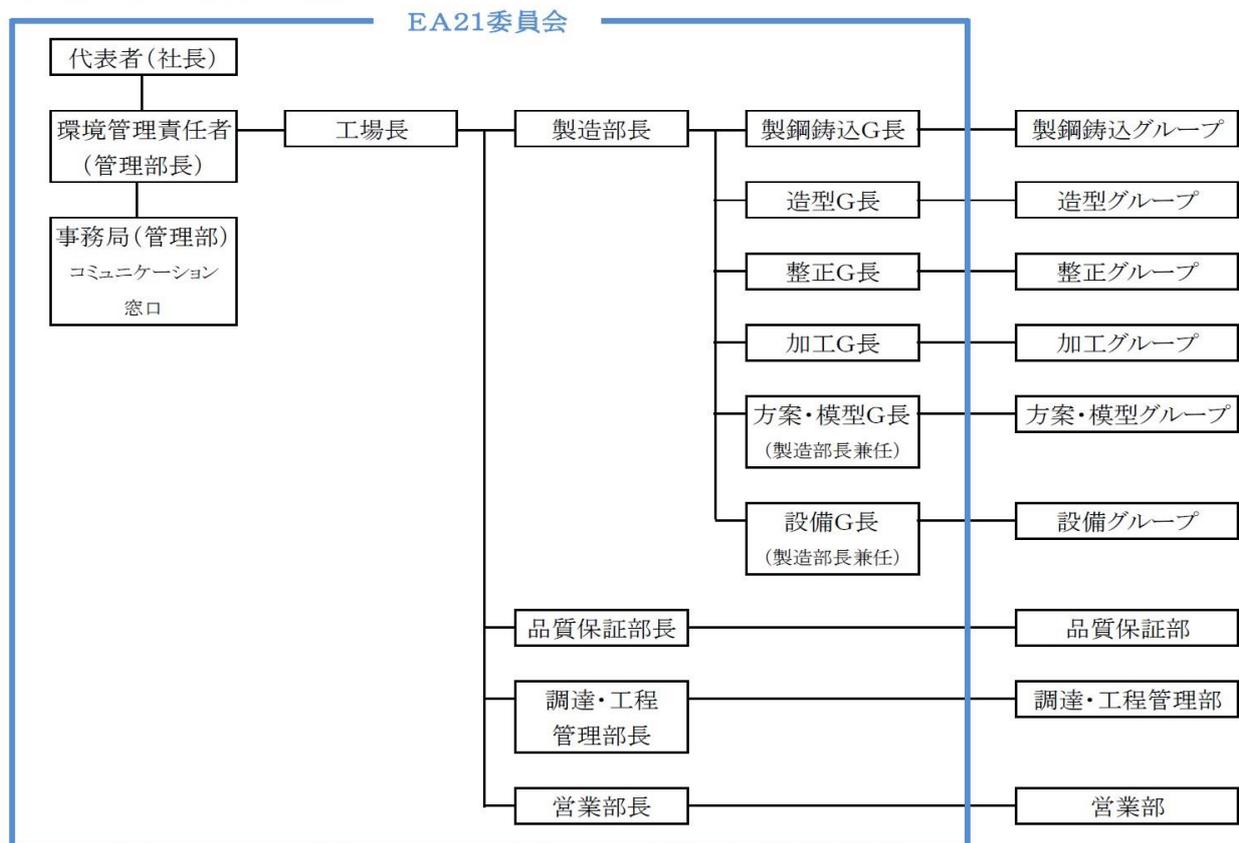
産廃管理(鉱滓)



6. 2019年度の目標と計画

環境目標	内容	単位	基準値 (2018年度)	中期目標 (2021年度)	2019年度 目標	備考
総エネルギー使用量の削減	電力使用量削減	kWh/生産t	1,956.4	1,897.7 (3%減)	1,936.8 (1%減)	
	重油使用量削減	L/生産t	147.2	90.0	100.0	重油炉1基及び重油バーナー廃止
	LPG使用量削減	kg/生産t	115.6	150.0	160.0	ガス炉1基増設、既存炉改良予定
温室効果ガス排出量の削減	二酸化炭素排出量削減	t-CO2/生産t	1,933.4	1,836.7 (5%減)	1,914.1 (1%減)	
水資源投入量削減	水使用量削減	m ² /人	23.4	22.7 (3%減)	23.2 (1%減)	
廃棄物総排出量の削減	紙使用量削減	購入円/生産t ×1000	24.0	23.3 (3%減)	23.8 (1%減)	
廃棄物最終処分量の削減	産廃最終処分量削減	最終処ft/生産t ×100	48.7	49.0	50.0	集じん機更新により排出量増加の見込
化学物質排出移動量の削減	化学物質使用量削減(クロム化合物)	購入t/生産t	70.4	30.0	35.0	クロマイトサンド使用撤廃予定
環境保全意識の向上	社員教育実施	回	2	12	12	印刷物の掲示及び回覧
地域環境へ協力	地域清掃活動への参加	回	1	1	1	

[2019年度の実施体制]



7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

取組期間中の環境関連法規遵守状況は、2018年4月にチェックリストで確認し、その結果は下表の通り□で法律違反は無かった。

行政・地域住民・その他からの訴訟も過去3年間皆無であった。

区分	法・条令等	規制内容	結果
大気汚染	大気汚染防止法	工場及び事業場から発生するばい煙等の排出を規制	○
	公害健康被害の補償等に関する法律	汚染負荷量賦課金の申告と納付	○
	秋田県公害防止条例第18条	硫酸化物排出量の規制	○
	フロン排出抑制法	エアコン等の定期点検(漏れ)	○
水質汚濁	水質汚濁防止法	漏油事故等の際、応急措置と届出の義務	○
	浄化槽法	浄化槽によるし尿処理等	○
	下水道法	公共下水道への排水	○
公害防止組織	公害防止組織整備法	公害防止統括者、公害防止管理者等任命の義務	○
廃棄物	廃棄物処理法	産業廃棄物と一般廃棄物の区分、規制措置、産廃管理票交付等状況報告書提出	○
	PCB特措法	2027.3.31までにPCB廃棄物を処分、毎年度保管・処分状況を報告	○
	水銀汚染防止法	他廃棄物と混合しないよう保管し、許可業者に処分委託	○
省エネ	省エネ法	エネルギー使用に係る規制	○
	秋田県地球温暖化対策推進条例	CO ₂ 排出量等の報告書と排出抑制計画書の提出	○
保安	高圧ガス保安法	高圧ガスによる災害の防止に係る規制	○
	消防法	防火対策等に係る規制	○
労働	労働安全衛生法	使用資材のSDS入手	○

8. 管理責任者の評価

2018年度は複数の項目が未達に終わったものの、CO₂排出量を低減出来た事は非常に喜ばしい結果である。今後生産量は増加の見込みであるが、排出係数の高い重油を使用する熱処理炉1基をガス炉に変更した事に加え、既存のガス炉2基も効率の良い燃焼が出来る仕様に改造予定であり、2019年度もCO₂排出量は削減出来ると予測している。

しかし作業環境改善の為、集塵機の更新を予定しており、産廃排出量は増加する事が予想される。ばいじん及び鉛の排出量を、今後どのように抑えていくかが大きな課題である。

見直し項目	評価	指示事項
1.環境経営方針	必要事項を満たしている。	必要に応じて見直す。
2.環境経営目標 及び 環境経営計画	2018年度下期より、作業環境改善及び生産効率向上の為の設備工事を行なっている。これが2018年度の実績に影響しているが、今後の成果にも繋がるものである。 (重油からLPガスへの転換) 既存のガス炉についても燃焼効率向上の為の改造工事を行なう予定であり、一層のCO2排出量削減が見込まれる。	2019年度の設備工事計画が達成出来るようフォローする事。
3.実施体制	毎年同じ基準で定量的評価が出来る体制は、概ね確立されている。	担当替え等に備え、算出・評価方法等を明確化する事。
4.その他	特に無し。	特に無し。

